

■ テーマ：県民協働の推進

講師：岩永幸三氏（佐賀県男女共同参画・県民協働課 参事）

（1）目指す姿

- ・地域の思いを大切に、自ら考え行動する自発の地域づくりの推進
- ・行政だけではなく、企業、CSO（市民社会組織の略）それぞれが活躍する社会＝県民協働社会

（2）協働とは

- ・共通の目的に向かって、それぞれの資源や特性を持ち寄り、対等な立場で協力して共に働くこと。
  - ・「自治の回復」こそが大切。自分たちの課題を自分たちで解決する。協働は相乗効果を生み、これからの少子高齢化に欠かせないもの。
  - ・佐賀県は H16～県民協働指針作成。市民が関わりプロセス重視で作成した。
  - ・協働の方法は主に 5 つに区分できる。①協働型委託 ②共催 ③補助 ④後援 ⑤事業協力。既に多くの事業で②、③、④は実施されている。
  - ・「協働化テスト」スタート時は 200 近い提案があったが減少傾向にあったため、平成 21 年から「CSO 提案型協働創出事業」として市町の参加を呼びかけた。提案書を県が受け、それから市町に割り振った。
  - ・現場を知るため、課の職員には 200 団体訪問ノルマを課した。職員が実際に経験すること、団体が職員を知ること。それらを通じて地域の活性化につなげる。
  - ・団体から「採択されない、予算化されない」という不満を受け、『さがみらい助成金』を設立した。
- ☆協働の事例 1…県庁県民相談窓口を NPO 法人に運営委託した。県民目線の対応が評判となり、来場者、相談件数とも増加した。県民の満足度 up!!
- ☆協働の事例 2…難病支援サポーターズクラブでは、企業等への難病患者の就労支援に関するネットワーク構築と情報交換を目的とする。難病の認知と理解も深まった。

<行政職員に必要な 8 つの姿勢>

- ① 公共は官だけが担うのではない。様々な主体と共に担うもの。
- ② 協働では失敗を恐れずチャレンジすること。（佐賀県知事：失敗上等!!）
- ③ ニーズは現場に足を運び当事者の生の声に耳を傾けてこそ分かる。
- ④ 協働相手とは対等。本音で語り合えてこそ協働。
- ⑤ 協働の現場では、自らの責務として率先して行政内部で連携し、相乗効果を得ること。
- ⑥ 十分なコミュニケーションが必要。共感には時間がかかる。
- ⑦ 情報は市民のもの。市民のために活用してこそ価値がある。
- ⑧ できない理由を探すのではなく、住民のために「どうしたら実現できるか？」

（3）プラスワン運動とは

- ・仕事や家庭の他に、もうひとつ『社会的役割』を持とう！と佐賀県が進めている運動。
- ・行政職員が取り組むことで、市民＝生活者の視点で業務に取り組むことができる。

## H28. 3. 15 協働できる・したくなる！環境づくり講座 講演要旨

「役所を外から見よ！外から見るとおかしいところが見えてくる。おかしいところが見えたら、おかしいことはなくなる。」

- ・佐賀県は、「コンプライアンス基本方針」に明記…「職員は最初の一步を踏み出してみる」「CSO活動に携わる職員を冷ややかに見ない」佐賀県職員の活動率：57.9%
- ・プラスワン運動…3ヶ月、3時間、3分、3秒
- ・「地域に飛び出す公務員」元島根県総務部長 椎川氏
- ・「地域に飛び出す公務員アワード」…地域に飛び出す公務員は正しい！そしてその人たちを応援する自分たちはもっと正しい！＝トップが集まって主催している。

### (4) これからの行政職員

- ・公務員がCSOに参加すれば、法や組織の仕組みを熟知しており非常に大きな力になる。
- ・役所には「ほめる文化」がない。これでは地域住民の心はつかめない。自分たちの限界を知り、住民自治の復活のため、「何かお手伝いできることはないですか？」「ありがとうございます。素晴らしいですね！」
- ・人の話を最後まで聞くこと

- テーマ：協働取組による益田川下流域の水質環境再生事業  
講師：豊田武雄氏（NPO 法人アンダンテ 21 理事長）

(1) 地域の実態を踏まえた課題

- ・「清流日本一の高津川」のすぐ隣に「汚れた益田川下流域」何とかしたい。
- ・10年前から保健所が水質調査しているが、変化なし。⇒協働でやるしかない！

(2) 地域課題を打破するための基本プロセス

- ① 集まる…益田川下流域水質環境再生協議会（仮）
  - ・市は6部局、地域は漁民や小・中・高校生、住民も巻き込んで
- ② 共有する…汚れの原因究明。企業も参加して工業排水、生活排水の寄与率を算定。
  - ・住民意識調査、議会での勉強会実施。
  - ・小学生が校正し、結果を反映しながら作成したパンフレットを配布。
- ③ 実践する…益田川一斉清掃実施。
  - ・漁民が船を出し、小学生はごみの調査、サッカークラブの中学生参加。
- ④ 広がる…益田土木と小学生の協働で河川標識を作成・設置。
  - ・「益田川生活排水セミナー」では、小学生が学習発表した。

(3) 協働との向き合い方

- ・県職員…縦割り行政の弊害を感じませんか？地域課題は「みんな」の事と意識していますか？協議会が単なる連絡会になっていませんか？
- ・市職員…課題を自分の部署だけで考えていませんか？職業人、生活者、地域住民として意見が言えますか？（仕事とプライベート、両方の立場で）
- ・NPO…協働事業で資金を獲得しませんか？自分たちの活動領域以外のNPO とつながっていますか？行政との信頼関係を高めていますか？